

2016年2月25日発行

地域と協同の 138号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

アベノミクスとTPP

岐阜県食健連会長
岐阜大学名誉教授
安部 淳



直近の政府経済統計は、安倍首相の言う「経済の好循環」にほど遠いものです。円安・株高で大株主や輸出大企業は潤う一方で、福祉切り捨てや雇用の非正規化、実質賃金の低下で国民の懐は冷え切っています。そこにもってきて富裕層や大企業に優遇税制に大減税をし、返す刀で消費税増税です。その結果、内需が落ちこみ、実質GDP（国内総生産）成長率はマイナスです。

少なくないエコノミストが、富裕層や大企業への富の集積促進政策であるアベノミクスの「破綻」や「終焉」を指摘しています。

しかし、新聞各社の世論調査では、安倍首相の支持理由に経済政策への期待があります。生活が苦しく将来設計ができない暮らしのなかで、アベノミクスの「おこぼれ」（「トリクルダウン」）に一縷の望みを託している心情の反映でしょうか。

TPP（アジア太平洋経済連携）協定『大筋合意』後の世論調査で、農産物関税撤廃による安い食料農産物の輸入を歓迎する意見がありました。TPPで暮らしが良くなるという期待の現れです。

アベノミクスの「第三の矢」は、「民間投資を喚起する成長戦略」です。TPPは、この「第三の矢」の核心で、「トータルで見てTPPは、米国に大きな利益を生む協定」です（安倍首相の経済指南役・浜田宏一内閣官房参与「プレジデント・オンライン」02月10日号）。「第三の矢」の実態は、「構造改革」や「規制緩和」によって、TPPでアメリカや日本の大企業のために国民の富を系統的に吸い上げる仕組みを作るものです。

狙われている分野が、国民の基本的な人権や民主的な権利を制度化した農業・農地、社会保障や医療・保健、労働、協同組合（生協や農協）などの「地域と協同」を基礎にした分野です。これらの非営利的事業分野は、民主的な憲法と民主運動が作り出した「戦後レジウム」の歴史的成果です。

TPPで暮らしがよくなるというのは幻想です。人びとのいのちや営みのすべてをビジネスの対象にし、大企業の思うがままに支配できる世界に作り替えようとするのが、TPPです。

それだけにいま、「地域と協同」の役割と意義を強調されねばならないでしょう。

CONTENTS

巻頭エッセイ

アベノミクスとTPP

1

第12回東海交流フォーラム 速報

「よりよい“くらし”をつくる地域のつながり

～小さなつながりからひらける地域の未来～

2・3

研究フォーラム「環境」再生可能エネルギー事例 視察・見学会

木質バイオマス発電—小規模分散型の事業として実現

4

情報クリップ

5~7

企画案内・書籍案内

8

研究センター 2月の活動

2日(火) 国際協同組合デー記念行事相談会(愛知)

3日(水) くらしと生産をつなぐものづくり準備会

5日(金) 研究フォーラム環境 8日(月) NEWS編集委員会

11日(木) 三重地域懇談会世話人会

12日(金) 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同

13日(土) 愛知における協同組合連携を推進するセミナー

14日(日) 共同購入事業マイスターコース第7回

17日(水) 尾張地域懇談会世話人会

18日(木) 研究フォーラム職員の仕事を考える/常任理事会

19日(金) 生協の(未来の)あり方研究会

22日(月) 岐阜地域懇談会世話人会

26日(金) 研究フォーラム食と農「食と農を考える」学習会

27日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/理事会



「よいよい“らし”をつくる 地域のつながい！」

～小さなつながいからひらける地域の未来～

1月23日（土）に第12回東海交流フォーラムを名古屋駅前ウインクあいちに於いて、102名の参加で開催しました。まず岐阜大学応用生物科学部教授 荒井 聡 氏から、「小さな協同・新たな協同で拓く地域の未来」をテーマに、講演いただき、4つ地域の事例と、JA厚生連の取り組みの報告をいただきました。その後グループに別れ、分散会で交流しました。当日参加された皆さんのアンケートでは、「小さなつながりが、自立した地域起こしにつながることに印象に残った」「明るい未来が感じられた。掘り起こせる豊かな資源がある」「小さな単位、暮らしの中からつながる事が地域活性化の可能性を広げる」「自分たちで作っていくことの大切さを学びました」などの声がありました。

講演「小さな協同・新たな協同で拓く地域の未来」～第35回日本協同組合学会・岐阜大会に学ぶ～

講師 荒井 聡 氏 岐阜大学応用生物科学部教授

昨年10月に、日本協同組合学会が開催されました。岐阜県では初めての開催で、特に、印象に残ったのは、小さな協同、新しい協同、これが新しく地域を切り開くことが実感できたことです。



「地域シンポジウム」は、開催地の事例から、協同のあり方を考える企画でした。

グローバル化の進行のもとで、地域産業の空洞化、過疎化が進行し、「構造改革」政策により、それらはさらに加速され、地域における生活基盤のゆらぎが、特に中山間地域にあります。その中で、地域にある宝物を最大限活用した商品開発、その商品を通じた生産者と消費者との交流の深化がすすみ、さらに、これまでの支え合いや、つながりを基礎とした新しい協同の取り組み、買い物支援などが同時に進行しています。これらの取り組みが、どう地域で展開しているか、同時に、昨今の農協改革に示されるような、協同よりも効率だという風潮が、果たして現場の実態にあったものなのか、同時に検証すること

が「地域シンポジウム」の狙いでした。

美濃酪連からは、生産者と消費者をつなぐ活動実践の報告がありました。協同組合間の協同の歩みの中で、提携商品の代表的なものは「せいきょう牛乳」です。①顔が見える、②交流会を実施、③商品開発を組合員と一緒にやる、④安全安心にこだわる、という4つの基準を満たして商品づくりに努めていると紹介がありました。酪農家がわかり、酪農家に大切に思っていることを伝え、職員の研修で理解を深め、自らの言葉で組合員に伝えるということが強調されていました。

森林組合の報告は林業の話です。ほとんど今は重機を使って木を伐り出すとのことです。「木こりのイメージを持っているかと思いますが、全然違うのですよ」と言われたことが印象に残りました。“64年の木材の全面自由化で国産材は減少の一途をたどりついています。実は、50年くらい経った木が一番伐り出しの時期で、そういう木がいっぱい残っているということです。今は、植えることより木を伐り出して利用することが急務だということです。同時に、若い人が林業に参加できるように、近代化の一つとして、機械化と同時にIT技術を活用して、境界を明確にするなど作業しやすいようにすることが森林組合として重要な課題となっていると紹介されました。

3つめは地元のJAぎふから、食と農を基軸に地域に貢献する実践を協同組合としてしているという話がありました。都市近郊ながら市民とのかかわりを強めていくことが強調され、中小規模の農家の支援策に力を入れているということです。今、直売所が人気で、直売所に出荷する生産者のために、農協が主導していろいろな農業塾を開いて、出荷者をたくさん育成しています。さらに、協同活動、くらしの活動として、高齢者施設の奉仕活動を積極的にしています。参加者の喜ぶ顔を見て、「協同活動の原点を感じた」と感想が寄せられているということです。総合農協としての経営基盤が確立しているから、地域貢献活動ができます。政府は総合性ではなく、経済性を追求すると提言をしていますが、地域が求めるのは農協の総合性です。

4つめの報告は、コープぎふより、JAめぐみのと協同した買い物支援の取り組みでした。協同組合間協同が浸透して、生協と農協と一緒に取り組むことができ、農協職員向けに生協の説明をするということに驚きをもって参加者が聞いておられました。基本的な考えとして、住民が主人公という考えを、協同組合同士が共有して、主人公がそこで暮らすために何をやるか、そこを出発点にして事業を展開したということです。垣根がとれ、地域で孤立する人をつくらないという思いで、こういう事業が新しく成立するということです。こうした買い物難民は、中山間地だけでなく都市部でも広がりつつあります。また、今回の協同組合学会では、コープぎふの「たすけあいの会」が学会の実践賞を授与されました。

「地域シンポジウム」のまとめとしては以下の事が言えます。協同組合の本質的な使命・役割は、地域に根ざした貢献

をすることであり、それは事業を総合的に行っているからやれることです。現場は地域を志向し、**必ずしも**単なる経済採算とか、輸出拡大など、政府のめざす方向とは違うことであることを実感しました。地域の魅力を再発見し、事業を通じて願いに応え、それを情報発信していくことが重要になっています。人口の重心をいかに岐阜に取り戻すのか、市場対応、農林業への市民の参画を考える必要があります。組織間の連携を強めて、地域に貢献する新たな協同を自主的に地域の中で考えることが大事です。そんなことを確認しました。協同組合学会の感想で印象に残ることは、新自由主義の弊害を何とかするのは、協同組合の役割ということ。それは絵空事と考えていましたが、この地域シンポに参加して現実味を帯びてきて、小さな積み上げが、いろんな矛盾を、一つ一つつくりかえる力になっていくのではないかと、そんな意見もいただきました。



報告の様子です

地域社会で協同組合の役割としては倫理的消費などがあります。社会的連帯経済の中核に協同組合が位置付けられていると思います。論点は、「すべて国民は個人として尊重される」という日本国家は憲法第13条の理念に基づいて。公共、社会福祉がありますが、まさに生協事業そのもので、その理念のもとで運営されていると思います。手間がかかりますが、小さな積み重ねが新しい地域社会をつくるということ、これは確信をもっていると思います。

今回の交流フォーラムの内容を特集した冊子を、増刊・研究センターNEWSとして発行する予定です。作成しましたら会員の皆様にはお届けします。(文責:事務局)

《報告》地域で取り組まれている実践の事例について、5つの報告をしていただきました。

報告①三河地域における「つながりづくり」活動（三河地域懇談会のあゆみ）と

今始まった「豊橋市における“ちょいボラ”活動」

「三河地域懇談会」 三河地域懇談会 世話人 田所 登代子氏
「とよはし“ちょいボラ”の会」 代表世話人 水藤 典子氏

- 実践者自身の研究をしたい、地域の人がやるのが大事と、三河の地で学びの場をつくってきた三河地域懇談会の「10年の歩み」と、生協組合員の福祉活動として、ちょっとした困りごとを援助するボランティアを地域で進める「とよはし“ちょい”ボラの会」の結成に至る経過と今後に向けてのお話がありました。

報告②小水力発電導入を通じた地域自治再生をめざして

特定非営利活動法人地域再生機構副理事長・石徹白農業用水農業協同組合参事 平野彰秀氏

- 農山村にある天然資源を活用して始めた小水力発電ですが、「自分とは関係ない」「一部の人がやっているだけ」と最初言われたそうです。しかし、地域の人に関心のあることを地域の人と一緒にすすめる中で、100世帯で新しく農業協同組合をつくり、地域の発電をまかなう水力発電所を建設することになったとのお話がありました。

報告③医療機関を拠点とした地域コミュニティづくりについて

J A愛知厚生連 足助病院 企画室長 上田 章弘氏

- 足助病院の理念は、「安全・安心・満足の医療・福祉（介護）・保健活動を通じ、中山間部地域住民の生活を守り、自然と共生できる文化的地域づくりに貢献する」ということです。その理念に基づき、救急医療に必要な患者情報・医療情報が書き込まれた「あすけあいカード」の取り組みをしているなどのお話がありました。

報告④ささえあいすけあい 地域だんらんまちづくり～星崎ブロックの地域包括ケアシステム

南医療生活協同組合 副理事長 中村 八重子氏

- グループホーム「なも」と小規模多機能ホーム「もうやいこ」は、空き家を探すなど組合員中心に事業所づくりが取り組まれてきました。今は「おたがいさまシート」で、困っている地域の人の情報がたくさん来て、いち早くボランティアが動き始めているなどのお話がありました。

報告⑤地域資源を活かしたまちづくり

水土里（みどり）ネット 立梅（たちばい）用水 事務局長 高橋 幸照氏

- 水土里ネットでは、江戸時代の先人がつくった農業用水を、防災用水、あじさい祭りやボート下りの観光、遊休農地を使った子どもたち向けのコミュニティスクール、農産物の加工で「米粉」つくりなどに活用しています。地域の資源活用で、協力して地域を守っていききたいとのお話がありました。

研究フォーラム「環境」再生可能エネルギー事例 視察・見学会 報告

（文責：事務局）

木質バイオマス発電—小規模分散型の事業として実現

12月7日(月)研究フォーラム環境世話人会で、再生可能エネルギー学習会を受けて、木質バイオマス発電をしている『三重エネウッド株式会社』を見学しました。参加は13名でした。

◆「三重エネウッド」—西川弘純さんよりお話◆

平成24年7月に電気の固定価格買取制度が始まり、間伐材を使った発電を進めています。再生可能エネルギーにはいろいろありますが、木をチップにしたものを燃やして発電する木質バイオマス発電です。山の中に落ちている、放置されている木をただ持ってくるだけでは利用できません。固定価格での買い取りには、未利用間伐材を活用しているという証明が必要です。これだけの山でこれだけの木を植えて、そのうちの30%の木をこれぐらいの期間で切ると国に計画を出さないといけません。松阪市の木であれば、飯南森林組合さんを通して未利用間伐材として売れます。丸太のままでは燃やすことはできないので、チップ加工を「ウッドピア」にしてもらっ



燃料ヤードでチップの説明を受ける

ています。売電価格は、未利用間伐材は1kWh当たり32円です。還付金として電気利用者に負担してもらっています。発電出力は5800kWで、一般家庭1万世帯分の電気を発電しています。

〈燃料〉燃料ヤードには3日分・600トンの燃料チップを貯蔵しています。チップは2種類で、ひとつが、ピンチップ（破碎チップ）で長細い、繊維のようになっています。もうひとつが、切削チップでブロック状になっています。切削チップはブロック状になっているのでこちらの方がよく燃えます。丸太、枝葉、流木などその形状に関係なく、間伐材は一トン当たり7500円で買い取りしています。林業にお金を如何に還元するかが目的なので形状、水分率に関係なく重さで買い取りします。間伐材の価格では、おそらく日本一高値の価格です。それは、同じ役員がチップの加工をする「ウッドピア」を経営しているからできることです。チップは、三重県の材が9割で、その他は他県です。林業の方に水分を下げてもらってこいとはなかなか言えません。発電機は「タクマ」というメーカーのボイラーです。水分も雨がふると含水率が増え、これを投入すると火が弱くなってしまいます。なかなか難しいところです。

〈ボイラー〉炉の中が800℃から900℃前後になっています。圧力は60気圧になっています。「流動層ボイラー」と呼ばれ、中で空気が細かい砂と一緒に回ります、流動砂と言いますが、これがチップを削るようにして燃やします。一般的にバイオマスはこのタイプのボイラーだと思います。排ガスが出ますので、排煙処理をします。

出るほこりや灰をフィルターで濾して排出します。この排ガスは、公害防止協定の基準値以内になるようにし排出しています。



ボイラーの外観

〈蒸気タービン〉ボイラーでできた蒸気が入り8枚のプロペラに当たり回転します。一分間に9700回転の高速回転で発電機を回します。蒸気になる水はきれいな水でないといけなないので、薬品など使ってる過して使っています。モーターなどを冷やす水は、近くの湧水を使っています。

〈外部〉鉄塔と電線がつながっていて、電気を送り、売買しています。

◆「ウッドピア木質バイオマス利用協同組合」のお話◆

〈チップ製造〉—松阪より南の方に森林が集中して、そちらの方から持ってきてチップ加工をしています。第1工場では、辻製油に収める産業廃棄物の廃材をチップ加工しています。第2工場では未利用間伐材のチップ加工をしています。間伐材は、電柱や割り箸などに使っていて価値がありましたが、輸入材が安くなり、未利用間伐材の価値が低くなりました。こうしてチップ加工することで付加価値をつけています。チップをつくる機械は、だいたい1時間に50トン程度生産する能力があります。丸太を入れると、チップで出てきます。短い丸太のもの、枝葉、丸太などがあります。形状に関係なくチップ加工しています。林業者が、おかげで潤います。間伐材を出しやすくなった、という声を聞きます。

◇感想◇間伐材（木や枝など）を粉砕してチップにしている



「ウッドピア」チップ加工の様子

光景は圧巻でした。林業関係者はじめ地域の方と力を合わせ「森と地域を守る」事業として進めているとのことでした。「事業は条件を生かし、地元の間伐材、地元の林業者と協力して山の保全につなげていることが良くわかった」「電力供給を特定のエネルギーに頼らず、小規模分散型の地域エネルギー事業の広がりを作り始めている」「固定価格買取制度により安定して間伐材を購入することができるという、消費者として理解し応援したい」など感想が出され、今後私たちができることを考える、学びの場となりました。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶他団体と協同して 取り組まれる 生協の地域づくり</p> <hr/> <p>NAVI 2016. 2 767</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 他団体と協同して取り組まれる生協の地域づくり 地域支援・助け合い・たまり場づくり</p> <p><コープのある風景> コープこうべ <こんにちは！生協男子ですっ！> コープかがわ 川井貴之さん <元気な店舗の運営を学ぶ> コープあいづCOOPBEASTひがし <宅配・現場レポート></p> <p>2015年度第5回 全国生協安全運転委員会 <生協大好きママコブ山さんの 教えて！CO・OP商品> COOPごま・ひじきだんご <☆突撃あなたの街の組合員活動☆> 富山県生協 <想いをかたちにコープ商品> 生協コープかごしま <私の本ナビ> おかやまコープ <CO・OPニュースフラッシュ> 鳥取県生協 神奈川県生協 <つながろうCOOPアクション情報> つながろうコープアクション交流会 <明日のくらしささえあう COOP共済> ユーコープ <生協職員のための接遇・対応の基本> 第11回 コープの好きな人を増やす【「気づきメモ」の取り組み②】 <この人に聴きたい> 歌手・俳優 / 荒木由美子さん</p>	<p>2016年 2月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶住民自治の まちづくり、 仕事おこしの 主体形成</p> <hr/> <p>協同の発見 2016. 1 278</p> <p>協同総合研究所</p>	<p>■巻頭言 自治の文化と協同労働 ～協同組合経営論の探求、借り物の経営論からの解放～ 岡安喜三郎（協同総合研究所 理事長）</p> <p>■特集 住民自治のまちづくり、仕事おこしの主体形成 ・ 特集にあたり 相良孝雄（協同総合研究所 事務局長） (報告者) ・住民自治によるコミュニティデザイン ～都市内分権の動向と理論～ 前山総一郎 (福山市立大学都市経営学研究科大学院 教授／協同総研理事) ・小規模多機能自治による住民主体のまちづくり 板持周治（島根県雲南市地域振興課 統括主幹） ・「協同労働事業」による地域づくりの主体形成 古村伸宏（日本労協連 専務理事 / 協同総研常任理事） 【国民皆農からの地域コミュニティ再生 ～農が持つ社会デザイン能力を生かす～】 蔦谷栄一（農的社会デザイン研究所 代表／協同総研会員）</p> <p>■ 会員だより (新潟高齢協の10年の歩み) 老いも若きも みな主役 「支えあい協同の力で、住民と共に仕事をつくり・地域を育む」 高見優（ささえあいコミュニティ生活協同組合 理事長 / 協同総研 会員）</p> <p>■協同のひろば 「みんなのおうちごはん」～たった一粒の中に～ 大中幸子（NPO環境未来センター希望 理事長） 戸丸治子（NPO環境未来センター希望 事務局）</p> <p>■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介 地域に広げる協同労働の輪 ～主体者としての自覚と責任をもって～ 中本栄宏（ワーカーズコープ山口 理事）</p> <p>■労協連だより 田嶋康利 ■研究所だより 研究所スタッフ一同から</p>	<p>2016年 1月 B5版 88頁 定価1300円</p>

<p>▶「食」「農」「協同組合」に係る国民理解の醸成</p> <hr/> <p>月刊 J A 2016. 2 732</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 「食」「農」「協同組合」に係る国民理解の醸成 組織広報のポイント “誠実さ”と“スピード”と“直言力” 三隅説夫（NPO法人広報駆け込み寺代表）</p> <p>都市農業を都市の側から考える 中井検裕（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）</p> <p>「食」「農」「協同組合」を伝えるポイント ① 『うまいっ！』番組制作うら話 NHK制作局生活食料番組部</p> <p>② 「食」「農」「協同組合」を伝えるポイント （株）新潮社広告部</p> <p>「信頼」が高まる広報戦略を考える — 広報大賞受賞JAに学ぶ 上野征洋（日本広報学会副会長・事業構想大学院大学副学長）</p> <p>・地方紙ニュース 第59回 前向きな取り組みにスポットライトを 猿渡将樹（熊本日日新聞社）</p> <p>オピニオンリーダーに聞く 岸本葉子 ・JAトップインタビュー 輸出をばねに、農業所得向上を目指す 山口県あぶらんど萩 代表理事組合長 水津俊男</p> <p>・展望 JAの進むべき道 進化するJA出資型農業法人と生産部会 大西茂志（JA 全中専務理事）</p> <p>・海外だより 連載 57 [D.C 通信] アメリカの農産物チェックオフ制度 中村岳史</p> <p>次代へつなぐ協同実践塾 ・直売所を拠点とした都市農村交流 —和歌山県・JA紀の里 「体験農業、消費者との交流を通じた地域農業の理解促進」 JA 全中組合員・くらしの対策推進部</p>	<p>2016年 2月 A4版 48頁 年間購読料 5,109 円(送料込)</p>
<p>▶人手が足りない！ その真実と、 今後の対応</p> <hr/> <p>生活協同組合研究 2016. 2 481</p> <p>（財）生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 人を活かさない会社と社会 — 劣化する経営能力 武田晴人</p> <p>▶特集 人手が足りない！ その真実と、今後の対応</p> <p>人手不足の実態と課題 戸田淳仁</p> <p>人手不足は過剰設備問題の可能性 松岡真宏</p> <p>深刻化する人手不足に対応する労働市場でのブランディングを 西久保浩二</p> <p>人手不足下での職業能力開発と生産性の向上を考える 小杉礼子</p> <p>コラム1 人手不足が、生協の配送業務に与えている生協と対策 宮崎元</p> <p>コラム2 生協の人事労務上の課題 小塚和行</p> <p>コラム3 学生に生協理解を広げる「協同」体験セミナー 小塚和行</p> <p>■ 海外情報 2015ICAアンタルヤ総会 —「ブループリント」達成に向けた中間点 伊藤治郎</p> <p>地域戦略に重心を置く英国ミッドカウンティズ生活協同組合 —伸長するサービス部門と地域ニーズ 近本聡子</p> <p>■ 時々再録 仕事と介護の両立を進めるために 白水忠隆</p> <p>■ 研究と調査 柳田国男の消費組合論（上） 堀越芳昭 （第2期）生協論レビュー研究会 ④ 鈴木 岳</p> <p>■ 本誌特集を読んで（2015・12） 望月 健・吉岡尚志</p> <p>■ 私の愛読書 日野原重明著『十歳のきみへ』 林 美絵</p>	<p>2016年 2月 88頁 B5版</p>

<p>▶TPPを国民争点へ</p>	<p>農協組合長インタビュー (24) 広島総合病院を核にしたメディカルタウン構想 医薬品共同購入における購買側主体の流通改革と使用対策 院長リレーインタビュー (285) 西三河北部の基幹病院として 「TPP協定の経済効果分析」を読む TPPを国民争点へ イギリスのアルツハイマー研究の最先端</p>	<p>忠末宜伸 佐治 実 川口 鎮 田代洋一</p>	<p>2016年 2月 B5版 96頁 文化連情報 編集部 03-3370- 2529 *注</p>
<p>文化連情報 2016. 2 455</p>	<p>大都市の在宅医療の実践と課題 新連載 医食同源 医療の現場を食から支える (1) 食の歩み 夢と希望と理念があるファーマーズビレッジ</p>	<p>ロバート・ハワード 宮本千恵美 石川知子 武藤喜久雄</p>	
<p>日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>第2回 LCC事例発表 ライナックの稼働状況と経済性について 大型医療機器導入から保守までのLCC戦略 病院建築と環境 (7) 病院と空調設備 農村医学運動は世直し運動! ~私の歩んできた道(11) 医療に新しい風を ~新しい医療を創る会発足~ 福島原発事故被災と健康の将来 (6) 放射性物質広域汚染とリスク 海外の医療メディエーション (5) スウェーデンの非責任追及 (ノーブレード)型補償制度 第6回厚生連医療メディエーター養成研修会 (基礎編) 医療対話促進養成セミナーを終えて 第3回厚生連メディエーター実践者スキルアップ研修会 背後にある欲求を分析する 開院70周年記念 稲沢厚生病院に行ってきました 岡田玲一郎の间歇言(134) 回復期リハ棟と急性期病床の将来 デンマーク&世界の地域居住 (81) オランダの革新 ② 施設はどうなった? グーテンターク、ドイツ (17) 強制収容所について思うこと (2) -「夜と霧」のことなど デンマーク・ドラワー市の地域包括ケア (3) リハビリに力を入れるブライエボーリ インゴーン ●野の風● 生かされていたこと ■書籍紹介 『はなちゃん 12歳の台所』 ▶ 線路は続く (195) 今乗っておきたい津軽海峡線 ▶ 最近見た映画 リザとキツネと恋する死者たち</p>	<p>西山史朗 関 幸司 柳 宇 小山和作 安藤 満 和田仁孝 佐藤恵太 丸橋佑介 増田青吾 加賀明彦 関根健太郎 岡田玲一郎 松岡洋子 鶴殿博喜 小磯 明 渡邊つたえ 渋川大介 西出健史 菅原育子</p>	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

治安維持法施行90年・終戦70年

3・15大弾圧 記念学習会 2015年度

日時：2016年3月21日（日） 午後1時30分上映開始
 場所：岐阜県教育会館 4F 中会議室 岐阜市徹明通7丁目13番地

1928年（昭和3）年2月20日第一回普通選挙が実施され、無産政党各派は49万票を獲得、8名当選。日本共産党は公然と「君主制度廃止」「帝国主義戦争反対」を訴えた。驚いた政府は3月15日全国一斉に活動家1600余人を検挙。特高警察がいかにむごい拷問をかけているかを国会で発言した山本宣治（京都二区選出）は右翼に1929年3月5日に殺されました。プロレタリア文学作家小林多喜二は小樽における拷問の状況を小説「1928年3月15日」に書きました。彼もまた、同じように1933（昭和8）年2月20日逮捕され、拷問され虐殺されました。

映画上映 「武器なき闘い」（140分）山本薩夫監督

課題 「山宣のたたかいと治安維持法」

歴代政府は侵略戦争を遂行する上で重要な役割を果たした「治安維持法」が人道に反する悪法であったことを認めないばかりか、謝罪や賠償もしてきておりません。昨年2015年9月19日安倍政権は「安保法制＝「戦争法案」を強行採決させました。パリ同時テロのあと、日本ではかつての「治安維持法」に近い「共謀罪」が議論されようとしています。再び暗黒政治への逆戻りです。これに対し「再び暗黒政治を許さない」覚悟をもって、「戦争法制」を廃止させるための国民総がかり運動に結集する必要があります。今回の学習会はその思いを新たにすため、山本宣治の生涯と治安維持法成立阻止のために、彼の残した大きな足跡を学びたいと思います。（募集チラシの文章から）

●企画：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟岐阜支部

書籍案内

世界でもっとも貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉

著者：佐藤 美由紀 単行本：112 ページ
 出版社：双葉社 発売日：2015/7/15
 定価：1000 円＋税

内容

2015年2月末に退任したホセ・ムヒカ前ウルグアイ大統領が、2012年のリオ会議での感動的なスピーチを中心に「世界一貧しい大統領」として日本でもブームとなっています。本書は、冒頭にそのスピーチ全文を掲載。そして彼の他の演説やインタビューの中から名言をピックアップして、ホセ・ムヒカ氏の人となりと思想、生き方をわかりやすく解説します。

双葉社 ホームページより

研究センター 3月の活動予定

- 2日(水) 事務局会議
- 4日(金) 組合員理事ゼミナール(修了式)
- 7日(月) 暮らしを語り合う会/NEWS編集委員会
- 11日(金) 常任理事会
 ／研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会
- 15日(火) 国際協同組合デー記念行事相談会
- 16日(水) アジアの平和、食と文化 実行委員会
- 17日(木) 三河地域懇談会世話人会
- 18日(金) 共同購入事業マイスターコース企画委員会
- 24日(木) 組合員理事ゼミナール世話人会
- 25日(金) NEWS発送／生協の(未来の)あり方研究会
- 30日(水) 研究フォーラム環境 世話人会

2016年2月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>